

Ⅲ 本県農業・農村の目指す方向

1 目指す将来像と目標

本県の農業は、東京圏に近い有利な立地条件や変化に富んだ自然条件を活かしながら、農業者のたゆまぬ努力と高度な生産技術の確立等により、全国に誇れる果樹を中心に、水稲、野菜、花き、畜産等の特色ある産地を形成してきました。

しかしながら、近年、こうした農業を支えてきた農業者の減少と高齢化の進行に伴い、農地の減少や耕作放棄地の増加等、生産基盤の脆弱化が進行しています。

これまで農業の担い手は、農家の後継者として親から子に引き継がれてきましたが、今後は、農家の子弟を含め農業に関心がある人たちが、農業に魅力を感じ、職業として農業を選択し、効率的かつ安定的な経営を実現し、将来に期待が持てるようにしなければなりません。

このため、担い手の経営力の向上、産地基盤の強化、販路の拡大等に総合的に取り組み、「担い手が育つ高収益な農業の実現」を進めていくことが重要です。

また、農村においては、中山間地域を中心に過疎化や混住化が進行し、農村コミュニティの機能の維持が困難となり、農業生産活動の低下をはじめ、鳥獣害の増加、農村景観の荒廃等が進んでいます。

こうした中、国民の価値観が多様化し、ゆとり、安らぎが重視されるようになり、農村の持つ景観や文化、歴史等農村固有の資源への関心が高まっています。

今後は、地域住民との連携や創意工夫の下に、こうした資源の維持と活用を図り、農村に住む人や訪れる人たちが、魅力を楽しむ農村づくりに取り組み、「魅力ある活力に満ちた農村の創造」を進めていくことが重要です。

そこで、「担い手が育つ高収益な農業の実現」と「魅力ある活力に満ちた農村の創造」の2つの目標に向けた取組を行い、農業に携わる人々や農村に住む人々が誇りと自信を持てるような、「未来につながる はつらつとした山梨農業」を本県農業の将来像とします。

2 視点

目標の着実な実現に向けて、2つの視点を踏まえることとします。

・消費者や都市住民との共生の推進

食の安全・安心を求める消費者や農業・農村が持つゆとり、安らぎを求める都市住民との共生を推進する施策を展開していきます。

・農村コミュニティの機能の維持・向上

農業者や地域住民が一体となった農村コミュニティの機能の維持・向上に資する施策を展開していきます。

3 施策の方向

次の6本の柱を中心に各種施策を重点的に推進します。

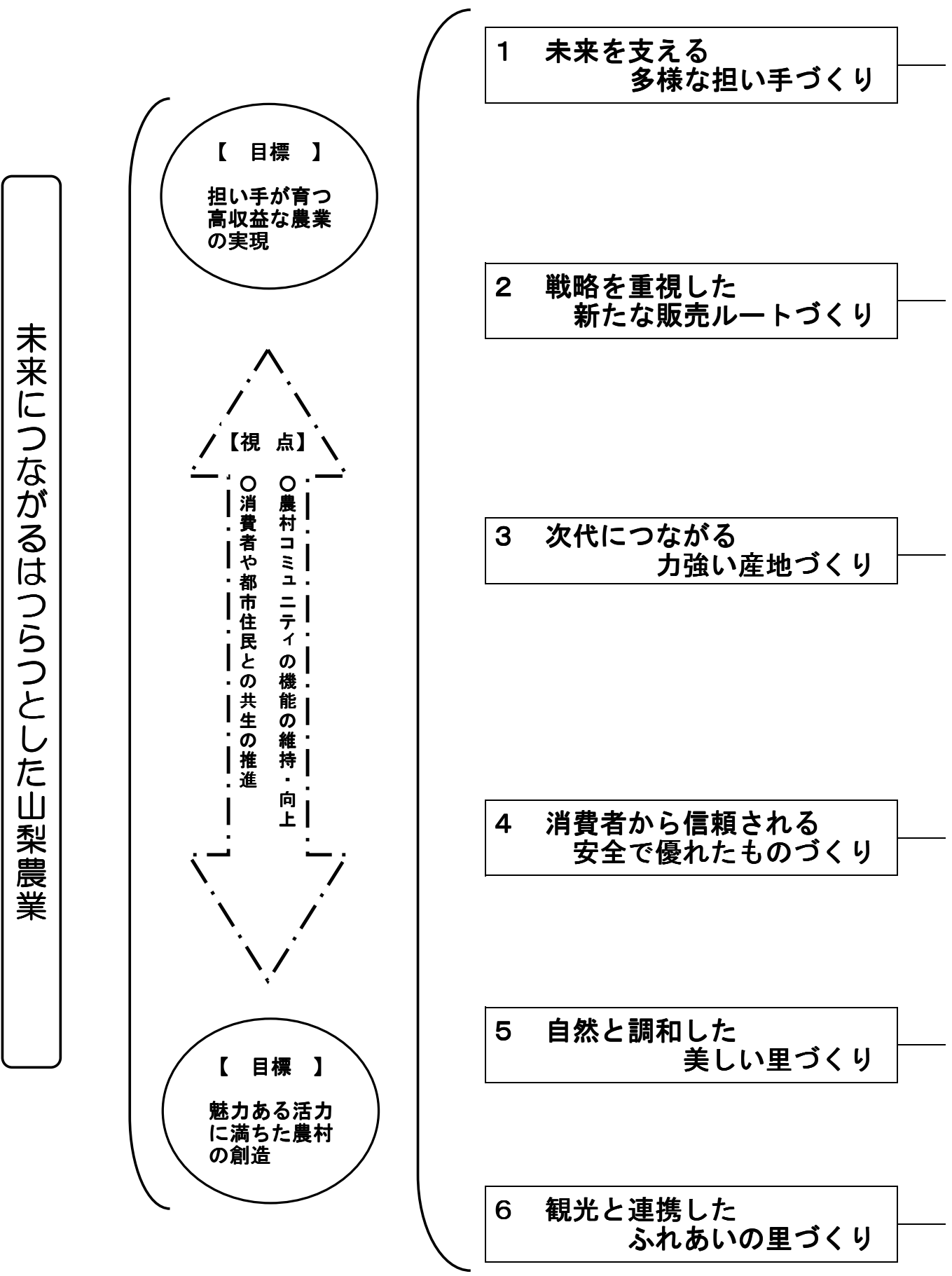
- 未来を支える多様な担い手づくり
- 戦略を重視した新たな販売ルートづくり
- 次代につながる力強い産地づくり
- 消費者から信頼される安全で優れたものづくり
- 自然と調和した美しい里づくり
- 観光と連携したふれあいの里づくり

やまなし農業ルネサンス大綱の構成

【将来像】

【目標と視点】

【施策の方向】



【施策の方向】

【具体的な推進事項】

